

砂防だより



明ける（富士市大淵）

年頭の御挨拶	2
平成19年度政府予算案閣議決定	
全国治水砂防促進大会	3
2006年しずおかの砂防10大ニュース	
東海地区砂防協会支部長・課長 合同会議	4
市町等砂防担当職員研修	
砂防事業における協働	6
土砂災害警戒情報	8
インフォメーション	10
石碑を訪ねて	11
砂防関係の主な行事(H19.1~6月)	12



平成19年度 **政府予算案閣議決定**



**市町等砂防担当職員研修
砂防事業における協働**



全国治水砂防協会静岡県支部

年頭の御挨拶



全国治水砂防協会静岡県支部
支部長 石川 嘉延

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

会員の皆様には、日ごろから当協会支部活動に対し御支援と御協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

昨年はフィリピンや中国などで、台風による大きな被害が発生しました。また、我が国においては、7月の梅雨前線豪雨により長野県や福井県そして中国地方や九州地方で土砂災害による痛ましい被害がありました。幸いにも本県では、土砂災害による人的被害はなく、比較的平穏な年を送ることができましたが、全国では相変わらず悲惨な土砂災害が続いており、昨今の異常気象から考えると、いつ本県で発生してもおかしくない状況です。

本県では、県民の約8%に当たる32万人が土砂災害の危険のある箇所に住んでおり、土砂災害防止施設の整備が進められておりますが、住民の生命・安全を守るためには早期避難が非常に重要となっています。

このため、県は土砂災害が発生する危険が高まった時に『土砂災害警戒情報』を、静岡地方気象台と連携し、本年の梅雨期から発表することを目指しています。関係者の御尽力により、この情報が住民の早期避難に結び付きますよう期待しています。

県民の生命・安全が土砂災害から守られ、安全で安心して暮らせる社会を実現するため、今年も砂防関係事業の普及・発展に努めてまいりますので、会員の皆様におかれましても、より一層の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます、年頭の挨拶といたします。

平成19年度 政府予算案閣議決定

速報

12月24日に、平成19年度の政府予算案が閣議決定されました。砂防関係事業の予算額は下記のとおりです。

河川局所管砂防関係事業予算内示額【国費】

(単位:百万円)

事 項	前年度予算額 (A)	19年度内示額 (B)	対前年度比 (B/A)
砂 防 事 業	128,965	123,177	0.96
地 す べ り 対 策 事 業	16,594	17,288	1.04
急 傾 斜 地 崩 壊 対 策 事 業	21,565	21,025	0.97
砂 防 関 係 事 業 計	167,124	161,490	0.97

注1) 道路関連社会資本分、特定治水及び剰余金等を含む。 注2) 計数は、整理の結果端数調整することがある。
注3) 上記計数以外に、総合流域防災事業(統合補助金)の内数として砂防関係事業がある

〈参考〉

総 合 流 域 防 災 事 業	66,303の内数	62,519の内数	(0.94)
-----------------	-----------	-----------	--------

注) 総合流域防災事業には、砂防関係事業(砂防事業、地すべり対策事業、急傾斜地崩壊対策事業)の他、河川事業・ダム事業も含まれる。

「全国治水砂防促進大会」開催される

11月28日に、全国治水砂防促進大会が東京都の砂防会館で開催されました。

当日は、全国から1,140名が参集し、当支部からも23名のご出席をいただきました。

大会に先立ち、上田早苗NHKアナウンサーより「災害対策と特色ある地域づくり」と題して特別講演が行われました。大会は、綿貫全国治水砂防協会長の挨拶に始まり、安富国土交通事務次官からの祝辞に続いて、亀江国土交通省砂防部長の挨拶の後、長野県岡谷市長、鹿児島県垂水市長から意見発表が行われました。最後に、大久保理事長が決議を発表し、満場一致で採択されました。

大会終了後、当支部会員の皆様により、地元選出国会議員と国土交通省へ、平成19年度予算の確保に向けての要望活動を行いました。

お忙しい中、ご出席をいただきました会員の皆様には心からお礼申し上げます。



綿貫会長の挨拶

静岡県支部の要望



1. 直轄砂防事業の推進

【重点箇所】・富士山の火山対策 ・大沢川源頭部調査工事、大沢川中間床固工
・大谷山腹工、ウラの沢砂防えん堤
・日向地区砂防えん堤群、唐沢砂防堰堤

2. 直轄地すべり対策事業の推進

【重点箇所】・由比地区直轄地すべり対策事業

3. 県による土砂災害防止施設(砂防、地すべり、急傾斜地崩壊対策)の整備と土砂災害に対する警戒避難体制の整備に資するソフト対策の着実な推進への支援

【重点箇所・施策】・東海地震に備えた緊急的な防災施設の整備
-地震急傾斜地崩壊対策事業の創設-
・火山噴火災害も想定されている富士山周辺地域の土石流対策の強化
・土砂災害防止法に基づく「砂防基礎調査」の推進
・安全で確実な避難のための土砂災害対策の推進

参加市町(18市町23名)

袋井市、富士宮市、河津町、静岡市、伊豆市、牧之原市、熱海市、伊豆の国市、菊川市、掛川市、磐田市、東伊豆町、西伊豆町、南伊豆町、松崎町、函南町、由比町、川根町

2006年 しずおかの砂防 10大ニュース

木和田川の砂防えん堤災害復旧工事 全建賞を受賞

平成15年7月の豪雨により被災した、有形登録文化財の木和田川えん堤が、元のような美しい姿で復旧したことが認められ、全建賞を受賞しました。



土砂災害防止に関する 絵画・ポスター・作文の表彰式を開催

小中学生から合計91点の応募があり、この内1点が、国土交通省砂防部長賞を受賞し、知事賞など計7点が入賞。3月27日に、県庁で表彰式を行いました。

直轄由比地すべり対策事業の起工式

1月14日に、由比地すべり対策事業(直轄事業)の起工式が開催され、国会議員、国土交通省技監、同砂防部長、県知事などが出席されました。



国土交通大臣が由比地すべりを視察

6月17日に、北側国土交通大臣が由比地すべり対策事業を視察され、その後、グランシップで「国土交通省における防災対策」について講演されました。

砂防事業における協働

静岡市グリーンベルトをはじめ、計画の段階から完成後の維持管理まで、住民が主体性を持って行政に参画し、地域づくりを行なう協働の取組が、各地で行なわれました。

砂防フェスティバル2006を開催

6月4日に、県民に砂防関係事業と土砂災害の恐ろしさ及び早期避難の大切さを知っていただくため、静岡市葵区青葉シンボルロードで開催されました。今年は1万5千人の来場者がありました。

砂防協会市町長の視察研修を開催

8月24日に、市町長研修を福岡県・大分県で開催し、両県での大規模な土砂災害と復旧状況を視察しました。



全国統一土砂災害防災訓練を実施

6月8日に、初めての全国統一土砂災害防災訓練が実施され、本県では、静岡市、浜松市、藤枝市、伊豆市で、情報伝達訓練や住民の避難訓練等が行なわれました。

河内沢川で大規模な山腹崩壊が発生、 災害関連緊急砂防事業に採択

平成18年は、7月の梅雨前線豪雨などにより26件の土砂災害が発生。河内沢川(浜松市龍山町)が災害関連緊急砂防事業に採択され、対策が進められています。

国際交流、台湾視察団が来静

4月20日に、台湾の台南懸及び国立成功大学防災研究センターの一行6名が本県の砂防事業等を視察されました。

東海地区 砂防協会支部長・課長会議開催される



亀江砂防部長の挨拶

11月20日に、東海地区砂防協会支部長・砂防課長会議が岐阜市において開催されました。

会議には、国土交通省から亀江砂防部長、全国治水砂防協会から岡本常務理事、各県支部長、砂防課長が出席し、本県からは原田副支部長（袋井市長）、本橋砂防統括監が出席しました。

会議では、亀江砂防部長から、「頻発する土砂災害から国民の安全・安心を確保するために」と題し土砂災害対策の現状の説明がありました。

また、協会本部より8月に実施した土砂災害防止法に関するアンケートの取りまとめ報告がありました。その後、各県の支部活動報告に続き、土砂災害防止法や避難勧告などについて、活発な意見交換が行われました。

午後は、4～5月にかけて大規模な山腹崩壊が発生した東横山地すべり（揖斐川町）の復旧状況等を視察しました。



現地視察（揖斐川町）

土砂災害防止法に関するアンケート



全国治水砂防協会では、時代や社会状況に応じた課題について、毎年秋のブロック支部長会議で議論してまいりました。市町村合併が一段落し、地域行政が新たなステージへ移行しつつあるなか、施行5年目を迎えた「土砂災害防止法」に関する会員アンケートを題材に議論を行ないました。その状況は「砂防と治水」に掲載される予定ですが、ここでは、本県のアンケート結果についてお知らせします。

Q1 区域指定作業に関する課題・懸念事項

Q1.1 市町村の立場で、課題、障壁となっていること

- ・住民の理解が得られにくい（制限のみで優遇措置がない、区域指定により資産価値に影響が出る）
- ・住民説明会の質問に対する統一見解が必要
- ・一度に広範囲の説明会は、住民への周知が困難

Q1.2 スムーズに区域指定を進めるための施策やご提言等

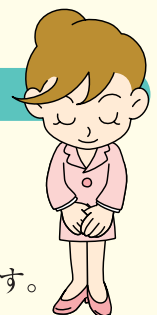
- ・固定資産税の減免等優遇措置をとる
- ・県と市町の連携を強化する
- ・住民にわかりやすい資料を提供する
- ・市街化調整区域への移転を可能にする
- ・市町の役割を明確にする
- ・説明会のための統一のQ & Aを作成する
- ・ハード事業要望への対応
- ・市町の負担を軽減する

Q2 区域指定後の状況（レッド、イエローゾーンの指定を既に実施された市町村の方に対する質問）指定による変化（住民や市町村職員の意識等）及び問題

- ・土砂災害に対する住民の意識高揚が図られた
- ・ハード事業への要望が増加した

Q3 国土交通省、都道府県、砂防協会等への要望等

- ・ハード事業の推進
- ・わかりやすいパンフレットの作成
- ・県による警戒避難体制の整備
- ・担当者を対象とした説明会の開催



皆様から頂いた御意見は、今後の砂防行政に反映させてまいりたいと思います。

特集

市町等砂防担当職員研修

長野県の砂防事業現地視察



11月21～22日に、市町等砂防担当職員の研修会を諏訪市で開催し、23名の参加がありました。

この研修は、市町等職員の皆さんの砂防事業に関する知識・技術の習得、向上に資するためのもので、毎年開催しています。

初日の研修会では、望月砂防室長、松本主幹、土砂災害対策スタッフ齊藤主査からそれぞれ砂防に関する講義がありました。講義終了後には質疑応答が行われ、活発な意見交換がなされました。

2日目の現場研修は、長野県砂防課の協力を得て、7月の梅雨前線豪雨による土砂災害とその対応について説明を受けました。

参加者からは、「被災間もない現場を視察し、強く感じるものがあった」、「防止効果事例を初めて見て大変参考になった」など、多くの意見が寄せられました。

研修内容

- 11月21日 ●砂防に関する講習（諏訪市）
 - ・土砂災害の発生状況等について
 - ・砂防関係事業における市町村の役割について
 - ・砂防関係事業（ソフト対策）について
- 11月22日 ●現場研修（岡谷市）
 - ・ヒライシ沢（砂防施設の効果事例）
 - ・横河川左支川（土石流災害）
 - ・小田井沢川（土石流災害）



研修会（諏訪市内会議室）



柳瀬長野県砂防課係長による説明

11月22日現場研修箇所

ヒライシ沢 平成16年通常砂防事業



平成16年度に完成した砂防えん堤が土石流や流木を止め、えん堤直下にある国道20号や人家25戸、病院及び養護老人ホームへの被害を防ぐことができました。

横河川（よこかわがわ）左支川 平成18年災害関連緊急砂防事業



下流には人家のほか、小学校、特殊養護老人ホームがあり、土石流により駐車場等が土砂に埋まった現場。砂防えん堤及び沈砂地等の整備を行い、上流域の山腹崩壊箇所は治山で対応するそうです。

小田井沢川（おたいさわがわ） 平成18年災害関連緊急砂防事業



7月19日の早朝に土石流が発生し、7名の方が犠牲になった現場。災害関連事業で本川、支川にそれぞれ砂防えん堤を整備し、さらに激特事業で支川に砂防えん堤、床固工等の整備を計画しているそうです。

参加者の声



参加者の皆さん

■ 湖西市道路河川課 課長 豊田吉博さん

穏やかな晩秋の2日間、砂防研修に参加させていただきました。土砂災害の状況は、新聞、テレビなどでその恐ろしさを承知していたつもりでしたが、実際に災害の爪痕が残る現場を目の当たりにして、ハード対策としての防止施設の整備や、避難体制の整備、災害に対する常日頃の意識付けなどソフト対策の重要性を改めて痛感しました。

■ 袋井市維持管理課 主査 竹原光俊さん

今回の研修に参加して強く印象に残ったのは現場研修でした。諏訪湖周辺は、本年7月の梅雨前線豪雨災害による土砂災害の被害を受け、それからの時間の経過が少ないため現場の状況から土砂災害の恐ろしさ、災害の大きさを感じ取る事が出来ました。何も無ければ忘れてしまいがちな土砂災害ですが、ソフト事業・ハード事業合わせて常に考えていかなければと感じました。

砂防事業における協働

砂防関係事業において、地域の課題やニーズに対応し、より効率的な行政を実現するために、砂防施設等の計画策定から完成後の維持管理までの各段階において地域住民に参画してもらい、協働による事業推進と施設の維持管理を進めています。

このような取組の積み重ねにより、県民の地域づくりに対する主体性の醸成と公共事業に対する理解の促進が期待されています。

計画づくりの協働

砂防事業の計画づくりを、地域住民との意見交換会・ワークショップなどを開催して進めています。これにより事業に対する住民の理解が深まるとともに、住民から過去の災害や地下水の状況等、地域の情報が得られ、事業を計画する上で大変役立っています。

寺下急傾斜（由比町）

近年の集中豪雨による土砂災害被害等もあり、地域で防災に取り組んでいます。これまでに地元説明会などを開催し、砂防事業に理解を深めていただきました。また、住民からは、地元ならではのご意見やご提案をいただき、県では、意見を参考に設計を進め地元へ報告していく予定です。



住民との意見交換会

維持管理の協働 ～砂防サポートプログラム～

砂防事業における維持管理の協働は、ボランティア団体と県が役割分担をきめ、同意書を締結する「砂防サポートプログラム」として取り組んでいます。

住民が中心となって定期的な清掃・美化・森づくり活動を行い、県ではアダプトサイン（標識）の設置、作業用資機材の貸与などを行っています。

桃沢川（長泉町）

桃沢川では、計画段階から主な利用者である地域住民の団体「桃沢川から愛鷹山を考える会」の意見を積極的に取り入れ、「水と緑の杜公園」の整備を行いました。

現在は、この公園の維持・管理、清掃美化活動を協働で行っています。



ボランティアによる流木除去の様子

〈平成18年度の実施箇所〉

■計画づくりの協働 3箇所

事業名	箇所名	市町名	協働の内容
砂防	東光寺谷川周辺	鳥田市	流路工の工法について意見交換
	セリガ谷沢	静岡市	砂防えん堤計画について意見交換
急傾斜	寺下	由比町	急傾斜の対策工法について意見交換

■維持管理の協働 5箇所

事業名	箇所名	市町名	協働の内容
砂防	静岡グリーンベルト	静岡市	砂防サポートプログラムによる里山の維持管理、施設の維持管理、清掃美化活動などを行っています。
	桃沢川	長泉町	
	木和田川	岡部町	
	童子沢	鳥田市	
	弓沢川	富士宮市	

第3回協働事例発表会『協働の底力。』開催 ～砂防事業の取組も発表～

12月16日に、静岡県土木部では、県内の元気な協働を紹介し地域づくりに役立てようと“県内の元気な協働事例・大集結！～第3回協働事例発表会『協働の底力。』”を開催しました。

発表会では、午前の部では静岡大学・日詰教授による基調講演が、午後の部では、石川知事出席のもと、県内の元気な協働の9事例の発表と、観客を交えたパネルディスカッションが行われました。

【午前の部】

基調講演 『地域に広がる協働の“輪”』
講 師 静岡大学人文学部教授 日詰一幸 氏

【午後の部】

第 1 部 『協働の事例発表会』
● 森と水辺を育てる会（静岡市）
● 丸子芹が谷町防災対策委員会（静岡市）
など9事例

第 2 部 『みんなでトーク』



知事のあいさつ

事例紹介① 「森と水辺を育てる会」～静岡市都市山麓グリーンベルト～

静岡市清水区大内地区では、グリーンベルト整備事業におけるモデル地区として、土砂災害に強い砂防樹林帯づくりを、地元住民が中心となって組織する「森と水辺を育てる会」と協働で進めています。



アピール
ポイント!

主な作業は、放置竹林の間伐や樹種転換ですが、タケノコ掘り、梅の実の収穫、竹炭作りなど楽しみながら里山の維持管理を行っています。また、子供達の体験学習の場として、PTAボランティアと一緒に、竹筒でご飯炊き、門松作りなどを開催しています。



樹林帯全体を周遊できる管理道路の整備



竹炭づくり



伐採した竹で子供たちと門松作り

事例紹介② 「丸子芹が谷町防災対策委員会」～静岡市丸子芹が谷地区～

静岡市駿河区丸子芹が谷町では、砂防・急傾斜事業の実施にあたり地域の防災対策委員会を中心とした住民と、計画・設計段階から工事完了後の維持管理まで協働で取り組んでいます。



アピール
ポイント!

地元住民は、設計から参画し提案が取り込まれたことで愛着が湧き、満足感が高まりました。また、協働を通じて事業に精通した住民を中心に日常点検を継続的に行っていきます。



工用進入路や付替道路の位置について地元意見を設計に反映（砂防事業）



工事完成後、どのように維持管理していくか現地で確認（急傾斜事業）



工法の選定や擁壁高さの決定方法についての勉強会を開催（急傾斜事業）

～土砂災害を防ぐために～

「土砂災害警戒情報」

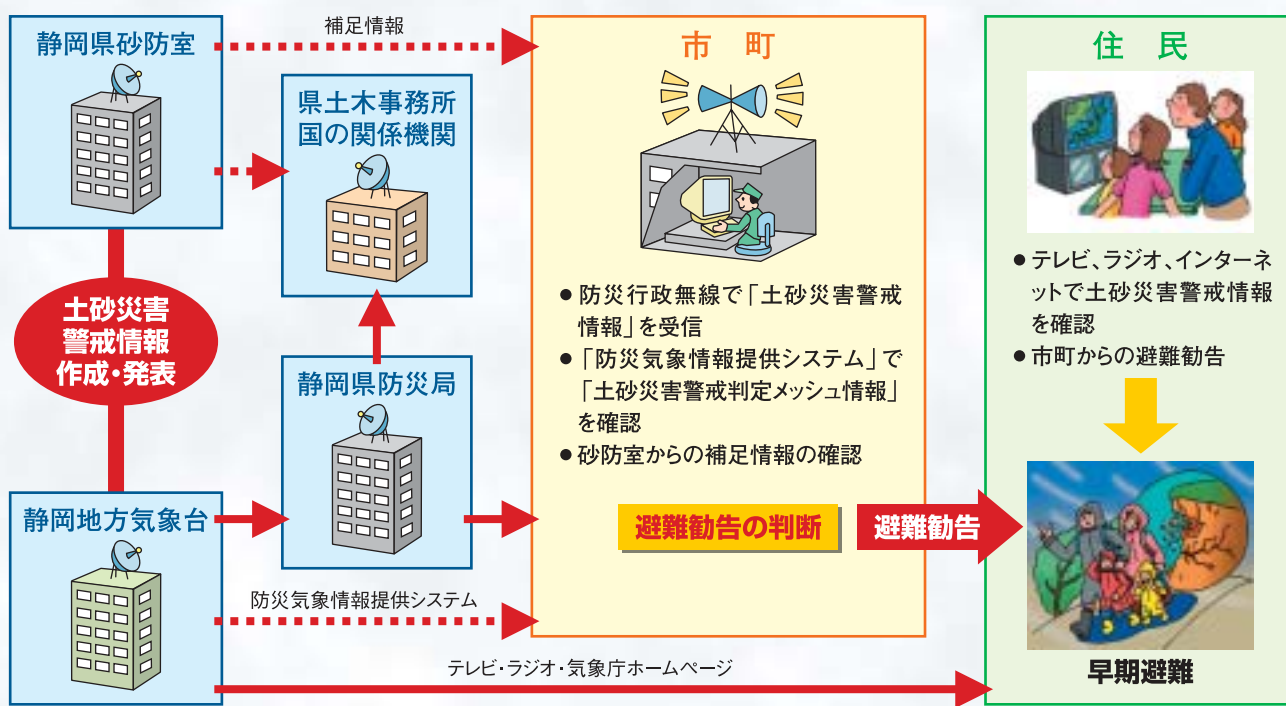
平成19年
梅雨期から
提供開始!



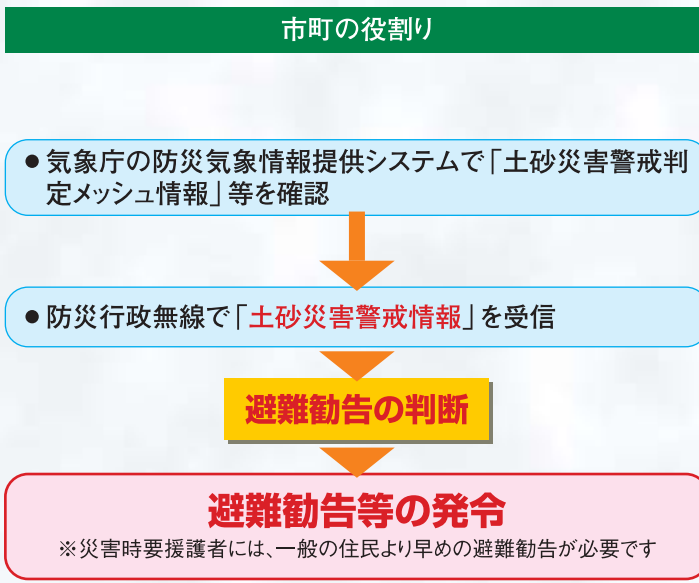
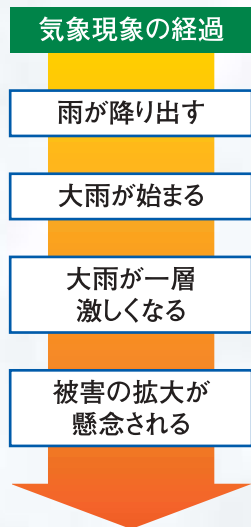
県では、住民の早期避難を促進し、土砂災害による人的被害を未然に防ぐため、気象庁と共同で「土砂災害警戒情報」の発表を平成19年の梅雨期から開始します。これは、大雨により土砂災害の危険性が高まった市町やその地域を特定し、市町長の避難勧告等の判断に活用できるものです。また、住民の自主避難にも役立ちます。

土砂災害警戒情報は、防災行政無線を通じて市町へ、テレビ等で住民へ発表します。

土砂災害警戒避難情報伝達のイメージ



→ 土砂災害警戒情報の伝達ルート
 補足する詳細情報の伝達ルート



土砂災害警戒情報

- 予測雨量により土砂災害の危険性が高まった市町に対し、2時間前に発表します。
- 土砂災害警戒情報が発表されると、気象庁のホームページに表示されます。
(誰でも見ることができます。)

気象庁ホームページアドレス

<http://www.jma.go.jp/jma/index.html>

■利用上の留意点

- 土砂災害警戒情報は、降雨から予測可能な土砂災害の内、避難勧告等の災害応急対応が必要な土石流や集中的に発生するがけ崩れを対象としています。
- 個別の災害発生箇所・時間・規模等を詳細に特定するものでもありません。

※設定した監視基準で、伊豆半島を中心に大きな被害が発生した平成16年10月の台風22号に適用してみると、「土砂災害警戒情報」が発表されていたことになります。

〔発表例〕

静岡県土砂災害警戒情報 第〇号

平成〇年〇月〇日 〇時〇分
静岡県 静岡地方気象台 共同発表

【警戒対象地域】
熱海市 伊東市 伊豆の国市 伊豆市

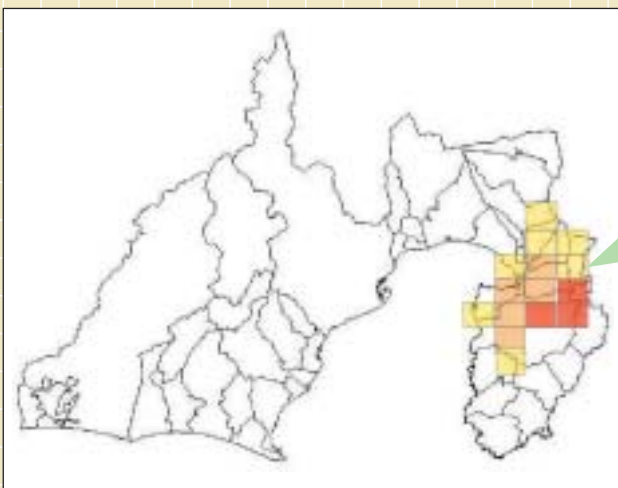
【警戒文】
今後2時間以内に、大雨による土砂災害の危険度が非常に高くなる見込みです。土砂災害危険箇所及びその周辺では厳重に警戒してください。警戒対象市町村での今後3時間以内の最大1時間雨量は、多いところで60ミリです。



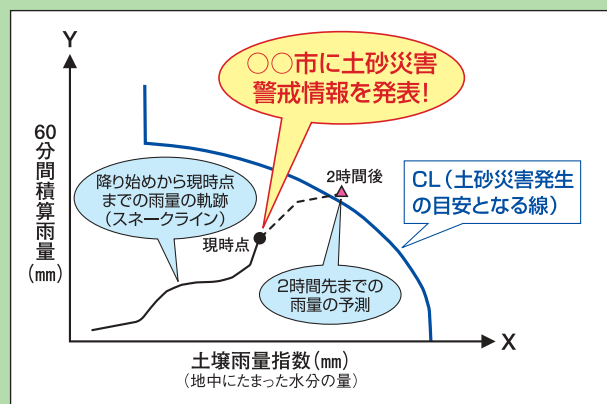
問い合わせ先
054-221-3041 (静岡県土木部砂防室)
054-286-3411 (静岡地方気象台技術課)

気象台から市町への補足情報 土砂災害警戒判定メッシュ情報

- 「防災気象情報提供システム」の土砂災害警戒判定メッシュ情報へアクセスすると、下のようなメッシュ図が現れます。
(アクセスにはパスワードとIDが必要です)
- 県内を縦横5kmの322個のメッシュに分割し、それぞれのメッシュごとに、雨量監視基準を設定しました。
- メッシュの色により危険度が表示され、赤のメッシュにかかる市町に**土砂災害警戒情報**が発表されます。



土砂災害警戒判定メッシュ情報は、スネークライン図を基に作成されます。



静岡県議会 治山・砂防事業推進議員連盟が現地視察

10月26日に、水と豊かな生活環境の創造と安心して暮らせる社会基盤の整備を目標に、砂防事業の推進を目指す「静岡県議会 治山・砂防事業推進議員連盟」が、大井川周辺の砂防事業等の現地視察を行いました。

今回の視察には、会員70名のうち17名が参加し、平成15年の豪雨等により大規模な地すべりが発生した島田市神尾地区の災害復旧状況などを視察しました。災害に強い県土づくりには治山・砂防の土砂災害防止事業が非常に重要であると再認識していただきました。



参加された議員の皆さん（神尾地すべり対策現場）

現地視察行程

- 静岡駅集合
- 神尾災害関連緊急地すべり対策事業
- 渚沢復旧治山事業
- 木和田川砂防災害復旧事業
- 静岡駅解散

参加議員17名（敬称略、順不同）

奥之山 隆（自民）	前沢 侑（自民）	杉山 盛雄（自民）
大石 哲司（自民）	赤堀佐代子（自民）	佐野 康輔（自民）
堀江 龍一（自民）	須藤 秀忠（自民）	小野 達也（自民）
伊藤 育子（自民）	菊池 初彦（自民）	曾根恵津広（自民）
渥美 泰一（自民）	前林孝一良（公明）	三ツ谷金秋（平成21）
佐野 愛子（平成21）	岩瀬 護（平成21）	

環富士山火山防災連絡会 定期協議会の開催



研修会（富士吉田市）

10月31日に、富士山周辺の静岡県側9市町と山梨県側7市町村による「環富士山火山防災連絡会」定期協議会が富士吉田市で開催されました。今回の定期協議会では、火山防災情報伝達訓練や構成市町村の避難所及び備蓄品等の情報の共有、火山防災対策に関する研修会を行いました。

また、2007年が富士山宝永噴火から300年にあたることから、今年11月に「環富士山火山防災シンポジウム」が開催されることが発表されました。

平成18年度 砂防治山連絡会議の開催

12月21日に、平成18年度砂防治山連絡会議が静岡県男女共同参画センター「あざれあ」で開催されました。会議では、来年度以降予定されている砂防、治山事業が効率的に実施できるよう協議調整を行いました。

参加機関

- ・中部地方整備局静岡河川事務所
- ・中部地方整備局富士砂防事務所
- ・関東森林管理局静岡森林管理署
- ・関東森林管理局天竜森林管理署
- ・静岡県環境森林部森林保全室
- ・中部地方整備局沼津河川国道事務所
- ・関東森林管理局治山課
- ・関東森林管理局伊豆森林管理署
- ・関東森林管理局大井川治山センター
- ・静岡県土木部砂防室



全体会議（静岡県男女共同参画センター）

石碑

をたずねて

〈vol.10〉

今回は、県の西部、袋井市にある石碑をご紹介します。

戦争中の昭和19年12月7日午後1時35分、熊野灘沖を震源とする、マグニチュード7.9の東南海地震が発生し、三重県、愛知県、静岡県を中心に東海地方から近畿地方にかけて死者441名という大きな被害がありました。本県では死者140名以上、特に、袋井市方面での被害が大きく、死者約70名、家屋の倒壊率は多いところで90%とされています。

地震発生時は学校の授業中で、袋井市での死者の大半が校舎の倒壊による児童や幼児の圧死でした。袋井市内の学校など各地に震災殉難者の慰霊塔を建て、毎年12月7日には防災訓練を行っています。



1 東南海地震袋井町西
国民学校被災児慰霊碑

- 場 所……………袋井市川井
- 建立日……………平成6年11月



2 大震災袋井市死亡者
追悼の碑

- 場 所……………袋井市川井
- 建立日……………昭和22年8月



3 追憶の碑

- 場 所……………袋井市久能
- 建立日……………平成6年12月



4 震災殉難記念碑

- 場 所……………袋井市上山梨
- 建立日……………不 明



5 東南海地震受難学童慰霊碑

- 場 所……………袋井市友永
- 建立日……………昭和49年3月

お知らせコーナー

第47回 砂防および地すべり防止講習会のお知らせ

砂防および地すべり対策業務を担当する中堅職員の実務並びに関連知識の習得を通じ、今後の円滑な業務の遂行に資するため、講習会が開催されます。

日 時：平成19年3月15日(木)～16日(金)
 会 場：砂防会館別館1階「利根」
 対 象：砂防および地すべり対策業務を担当する中堅職員
 参 加 費：5,000円
 主 催：全国治水砂防協会 TEL (03) 3261-8386
 問合せ先：全国治水砂防協会静岡県支部 TEL (054) 221-3042



2008 砂防カレンダー 「現場周辺の山・谷・川」写真コンテスト

砂防関係工事現場やその周辺の仕事、暮らし、余暇活動、山、渓流、花、動物等をテーマに2008年の砂防カレンダーの写真を募集しています。



応募資格	制限はありません
サイズ	カラー写真で四切りサイズ (四切りワイドを含む)
締 切	冬の写真／平成19年3月31日(消印有効) 春の写真／平成19年6月30日(消印有効)
入選及び賞金	優秀賞／季節各1点 計4点 賞金各10万円 佳作賞／季節各2点 計8点 賞金各5万円

作品募集に関する詳しい問い合わせ先は…
 NPO法人砂防広報センター TEL (03) 3239-1711
 ホームページアドレス <http://www.sabopc.or.jp>

土砂災害防止写真コンテスト

- 【テーマ】
- 砂防施設のある風景
 - 住宅等を守る砂防施設
 - 緑を守る砂防施設
 - 崩壊地・土砂災害の状況
 - 土砂流出で荒廃した渓流の状況
 - その他土砂災害防止に関連のあるもの

応募資格	制限はありません
サイズ	白黒、カラープリントとも四切りサイズ (ワイド可)
締 切	平成19年3月31日(消印有効)
入選及び賞金	最優秀賞／1点 賞金20万円 特 選／2点 各5万円 佳 作／10点 各2万円

作品募集に関する詳しい問い合わせ先は…
 社)全国治水砂防協会 写真コンテスト係
 TEL (03) 3261-8386 FAX (03) 3261-5449
 E-MAIL: kyokai@sabo.or.jp

平成19年 1-6月 砂防関係の 主な行事

- 支部活動予定 2月 2日 静岡県砂防ボランティア協会総会
5月 29日 静岡県支部通常総会(予定)
- 協会本部活動予定 3月 15～16日 砂防および地すべり防止講習会(砂防会館)
5月 16日 平成19年度通常総会(砂防会館)

【表紙写真】



明ける〈富士市大淵〉
鈴木 豊さん(富士市)

※砂防協会では表紙に掲載する静岡県内の写真を募集しています。皆様のご協力をお願い申し上げます。詳しくは、下記まで問合せ下さい。

編・集・後・記

新年明けましておめでとうございます。
 土砂災害防止に向けて、意識の向上を図るための広報・啓発活動として本誌が担う責任を改めて認識し、よりよい誌面づくりに努めていきたいと思っております。年頭に当たり会員の皆様方の御多幸を祈念しますとともに、本年も砂防だよりをご愛読いただけますよう、よろしく願いいたします。

砂防だよりは砂防室ホームページからもご覧いただけます。HPアドレス：<http://doboku.pref.shizuoka.jp/sabou/index.html>